

全体を通して(特に良いと思われる点)	
「三月の風、四月の雨、五月の花を咲かせる力」というマザーグースの歌の一節が利用者の方の筆によってしたためられ居間に飾られていた。また、和室にしつらえられた仏壇のお水を取り換え、読経される方もおられる。また、時には、近所の馴染みの喫茶店でおしゃべりを楽しまれたり、週に1回はボランティアの方のピアノに合わせて懐かしい歌を口ずさむなどの機会もある。そのような一人ひとりの暮らしが満載されたホーム便りやホームページをご家族はとても楽しみにしておられる。利用者の入居前の生活習慣をホームでも続けられるよう夜間に入浴できるよう支援されている。また、ゴルフボールを入れてマッサージ効果もある足湯は、いつでもどこでも対応されている。職員のあたたかい見守りや支援の中で、利用者個々が中心となり思い思いに暮らしておられる姿をうかがうことのできるホームであった。	
分野	特記事項(特に改善を要すると思われる点)
運営理念	ホームでは、運営推進会議などの機会を捉え、ホームの理念や役割が地域へ理解されるようホーム便りの配布などを考えておられ、さらなる広報・啓発の取り組みが期待される。
生活空間づくり	要改善点は特にない。今後も、利用者一人ひとりにとっての居心地のよい生活空間作りの工夫を重ねていかれてほしい。
ケアサービス	ご家族の意見が介護計画にさらに反映されるよう、ご家族の声の大切さを繰り返し伝えられるなどさらなる取り組みが期待される。年に1度救命救急法の講習を受けたり、夜勤にはできるだけ看護職が就くなど配慮されているが、すべての職員が緊急時に慌てず適切に対応できるよう継続的な研修に取り組まれることが期待される。
運営体制	ホームでは、家族会の開催を年2回に増やし、さらにご家族が相談しやすい機会を作りたいと考えておられ、今後のさらなる取り組みが期待される。地域との関係性をゆっくりと築かれているが、近所の方達がホームに立ち寄ってくれるようなことは少ない。今後さらに気軽に立ち寄ってくれるよう働きかけられ、地域の方達との交流を深めていかれてほしい。ホームの見学や研修、ボランティアなどを受け入れておられるが、さらにホームの認知症ケアの専門性を活かして、教室の開催など発展的な取り組みが期待される。
その他	災害マニュアルを作成し避難訓練をされており、職員の緊急連絡体制も整っているが、関係機関や地域との連携体制については運営推進会議などを通じてすすめていかれる予定であり、今後の取り組みとなっている。

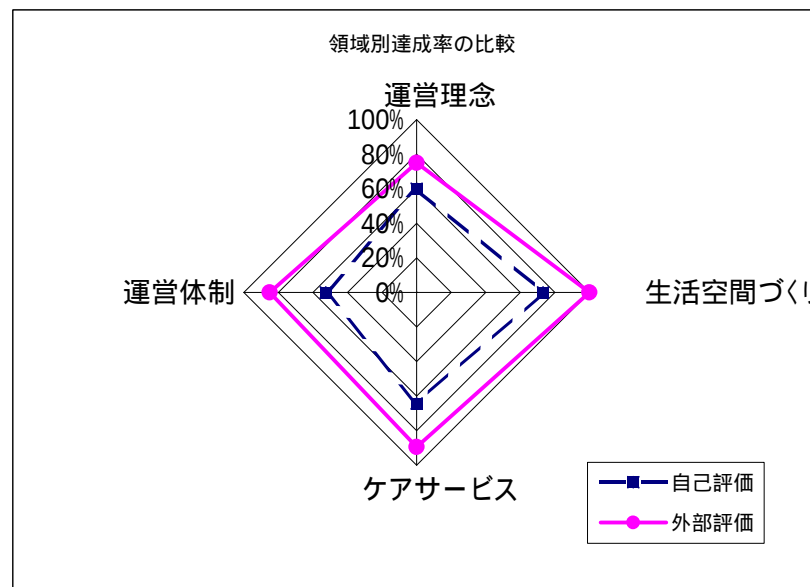
分野・領域	項目数	「できている」項目数
運営理念		
運営理念	4項目	3
生活空間づくり		
家庭的な生活環境づくり	4項目	4
心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
ケアサービス		
ケアマネジメント	7項目	6
介護の基本の実行	8項目	7
日常生活行為の支援	10項目	10
生活支援	2項目	2
医療・健康支援	9項目	7
地域生活	1項目	1
家族との交流支援	1項目	1
運営体制		
内部の運営体制	11項目	11
情報・相談・苦情	2項目	1
ホームと家族との交流	3項目	3
ホームと地域との交流	4項目	2
その他		
火災・地震等の災害への対応	1項目	0

自己評価・外部評価の達成率の比較

分野・領域	自己評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	5	60%
生活空間づくり	13	73%
ケアサービス	77	64%
運営体制	40	53%
合計	135	61%

分野・領域	外部評価結果	
	項目数	達成率
運営理念	4	75%
生活空間づくり	10	100%
ケアサービス	38	89%
運営体制	20	85%
合計	72	89%

自己評価作成日	平成18年5月1日
訪問調査日	平成18年6月22日
評価結果確定日	平成18年9月30日



レーダーチャート・表の見方

* 自己評価結果・自己評価作成は、各ユニット毎に行ないます。その結果、ホームで「できている」と回答した数を集計し、事業所での達成率として表しています。

* 外部評価結果・外部評価は、ユニットすべてを調査しますが、評価結果は、事業所単位で表しています。

* 自己評価・外部評価の達成率の比較・自己評価が外部評価の達成率に比べて低くなっている場合があります。これは事業者自ら提供しているサービスに対し「まだ十分でない」「もっと改善の余地があるのではないか」という質の向上に向けた取り組みの姿勢と捉えることができます。

項目番号	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己					
	運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1	○			管理者は、グループホームの意義などを理解されている。理念に基づいた行動指針をそれぞれのユニットごとで作成されていた。また、ミーティング時、各ユニット独自の月目標を設定し、職員間で共有されている。	
2	3	○			ホームの理念は、リビングやスタッフルームに明示されており、利用者やご家族などにも説明されている。	
3	4	○			利用者の権利・義務は、利用案内時の説明文書などに明記し、ご家族などに分かりやすく説明され同意を得ようになっている。	
	2. 運営理念の啓発					
4	5	○			町内会に加入され地域行事などに参加されている。ホーム便りやホームページも作成されているが、地域に対して啓発・広報するような取り組みは特にされていない。	ホームでは、7月に開催される運営推進会議を契機に、ホーム便りを地域に回覧したいと考えておられる。今後、さらに、ホームの理念や役割が地域に理解されるような広報・啓発の取り組みが期待される。
	運営理念 4項目中 計	3	1	0		
	生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○			門扉はいつも開けておられ、玄関前には季節の草花が植えられおり、親しみやすい家庭的な雰囲気作りをされている。	
6	7	○			共用空間は開放的で明るく、玄関や居間、廊下の壁には、絵や手作りの小物、利用者の手による書などが飾られていた。和室には仏壇があり、掛け軸なども掛けられてあり家庭的な雰囲気づくりがなされていた。また、中庭には石灯籠やお地藏様、つくばいなどが配置されている。	
7	8	○			居間にはゆったりとしたソファ、テーブル・椅子があり、和室には座布団が用意されるなどそれぞれが思い思いの場所で過ごすことができるようになっている。また、中庭やウッドデッキのテーブルでお茶などを楽しまれることもある。	

項目番号 外部 自己	項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
8	9	○			居室には、仏壇やタンス、椅子、扇風機など個々の馴染みのものが持ち込まれている。ご夫婦の居室は、二間続きとなっており、一間を寝室にされ、もう一間にテレビや椅子などを置かれくつろげる場所となっていた。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計		4	0	0		
9	11	○			ホームの要所には手すりが設置されている。台所の流し台がやや高いため、利用者が使いやすいように低めのテーブルが用意されていた。また、洗濯物の物干しも高低2段のものを使われるなど安全で使いやすいよう工夫されていた。	
10	13	○			各居室には利用者の目線に合わせて立体的な表札がかけられていた。	
11	14	○			テレビやCDの音量、職員の会話のトーンなど利用者の状態に合わせて配慮されていた。居室の入り口のドアの磨りガラス部分がまぶしいと感じられる利用者には、その人らしい花柄やレースなどののれんを掛けておられた。	
12	15	○			訪問調査時、空気のとどみや臭気は感じられなかった。玄関には網戸を設置され、トイレの窓辺によしずを立てかけるなど換気や温度調節に気を配っておられた。	
13	17	○			居間には大きく見やすい時計やカレンダー、日めくりが掛けられていた。また、中庭の四季折々の草花は、季節を感じることができる。	
14	18	○			裁縫道具や掃除用具、園芸用品などを目の届くところに用意されている。また、書道用具など趣味の品なども提供されている。	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計		6	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			アセスメントに基づいて、個々の特徴を踏まえた具体的な介護計画が作成されている。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を取り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			介護計画作成に当たっては、ケアカンファレンスを行い、すべての職員の気づきや意見が採り入れられている。作成後の計画書は個別にファイルされ、すべての職員が日常的に確認できるようになっている。	
17	22	○介護計画への利用者・家族等の意見の反映 介護計画を、利用者や家族等とも相談しながら作成している。		○		ご家族の来訪時などに意見をうかがうなどされ、記録もされているが、ご家族からの意見は少なめである。	安心してホームに任せておられるご家族などに対しても家族の声の大切さをお伝えし、さらに利用者、ご家族などとも相談されながら計画を作成できるような仕組み作りが期待される。
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			介護計画は、3ヶ月ごとに見直されており、状態変化時には随時の見直しもされている。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			個別記録には、暮らしぶりと共に日常会話などが具体的に記録されている。また、ケアプランについては#の、ケアポイントについては の印を付けて記録されており、介護計画に反映できるよう工夫されている。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に行い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			利用者別の申し送りノートやスタッフ連絡ノートなどを活用して情報伝達が行われている。確認後はサインをするようになっており、重要な点は全職員に伝わるようになっている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			職員会議は月1回、各ユニットごとに午後1時から全職員参加で行われており、活発な意見交換がなされている。その際には、他のユニットの職員が応援に来てくれるようになっている。	
ケアマネジメント 7項目中 計			6	1	0		

項目番号	項 目		できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○利用者一人ひとりの尊重 職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			職員は、利用者の「プライバシーを守り、一人ひとりの心を読み取る」よう努めておられ、コミュニケーションを大切にされている。調査訪問時、利用者の呼びかけに腰を低くされ、手を取ってお話しされていた。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			職員は、利用者に対して穏やかな表情でゆったりとやさしく接しておられる。	
24	30	○利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 利用者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		○		利用者一人ひとりの生活歴や生活習慣などをご本人やご家族などからうかがい、その人らしい生活が送れるよう努めておられるが、今後さらにこれまでの経験などを活かしたケアなどへの取り組みを充実されたい。	ホームでは、センター方式を活用し、ご家族の協力を得ながらさらなる利用者個々の生活歴の把握に努めておられる。一人ひとりがその人らしい暮らしをホームでも続けていけるような取り組みが期待される。
25	32	○利用者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			職員は、「ちょっと待ってね」という言葉を使わず、利用者一人ひとりのその人らしいペースを守れるよう支援されている。	
26	33	○利用者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切に、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			外出の希望、おやつや食事の好みなど、職員は日々の暮らしの中で利用者が選んだり決めたりできるような場面づくりをされている。	
27	35	○一人で行えることへの配慮 自立支援を図るために、利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			個別の「できること、できないことシート」を作成し、「出来る・出来ない・出来るがしない」のかを全職員で話し合い、自立支援に向けた場面作りに努めておられる。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			職員は、身体拘束について正しく認識されている。転倒予防のためセンサーマットを使用されている方もおられる。	
29	38	○鍵をかけない工夫 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族等に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			日中は門扉、玄関に鍵をかけず、自由に出入りできるようにしている。	
介護の基本の実行 8項目中 計			7	1	0		

項目番号	外部	自己	項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
			(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43		○ 馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、利用者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			ご自身のものを使用されている方もいる。家庭的な食器がホームで用意されており、料理や季節に合わせた食器を使用されるなど工夫されていた。	
31	44		○ 利用者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			利用者の体調や状態に合わせて、食べやすいように調理されている。嚥下困難な方のお茶や汁物にはとろみをつけるなどされていた。	
32	45		○ 個別の栄養摂取状況の把握 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			栄養バランスを考慮し献立を作成されており、糖尿食の方などには個別に対応されている。また、水分摂取管理の必要な方には、摂取量を記録し把握に努めておられた。	
33	47		○ 食事を楽しむことのできる支援 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			食事中はテレビを消し、職員も利用者と共に食事を楽しまれ、さりげなくサポートされていた。利用者個々におしぼりが用意されており、食事中にも手や口を拭くことができるようにされていた。	
			2) 排泄					
34	48		○ 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			職員は、「入居者身体チェック表」にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう声かけや誘導をされている。	
35	50		○ 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			失禁の対応で、利用者が介助を受け入れない場合などには、他の職員がさりげなく対応されるなど、職員間で支え合って支援しておられる。トイレのドアには使用中か否かが分かるように札をかけるなど工夫されていた。	
			3) 入浴					
36	53		○ 利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 利用者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			利用者の入居前の生活習慣をホームでも続けられるよう夜間に入浴できるよう支援されている。ゴルフボールを入れてマッサージ効果もある足湯は、いつでもどこでもできるよう対応されている。	
			4) 整容					
37	56		○ 理美容院の利用支援 利用者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			個々の馴染みの理美容院を利用されたり、ボランティアの美容師の方にカットしていただくなどされている。	

項目番号 外部 自己		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
38	57	○ブライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、ブライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髷、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			利用者の皆さんは、それぞれに清潔で身だしなみをきちんとされていた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 利用者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない利用者には、1日の生活リズムづくりを通じた安眠策を取っている。	○			医師と相談の上、眠剤を使用されている方もおられるが、利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、散歩や食事作りなど日中の活動を通して生活リズムを作り、安眠できるよう支援されている。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			ご自身でお小遣いを管理されている方もおられ、喫茶店などではご自分で支払われるなどされている。また、財布を持つことがご本人の安心感につながる方もおられ、利用者個々の希望や力量に応じて支援されている。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			食事作りや配膳、洗濯物たたみや掃除、書道や裁縫など利用者一人ひとりの趣味などをホーム内でも楽しむことができるよう支援されている。また、週に1度、ボランティアの方のピアノに合わせて懐かしい歌を歌うことも楽しみにされている。マッサージ機も自由に利用されている。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健婦、看護婦等)	○			母体病院をはじめ、協力医療機関を確保されており、連携を図り24時間対応していただけるようになっている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			利用者が入院された場合は、お見舞いにかがいがい、ご家族や医療機関とも話し合い、早期退院に向けた支援が行なわれている。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			週に1度往診があり、定期的に採血などが行われ医師の指導を受けられるようになっている。	

項目番号	外部	自己	項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
			(6)心身の機能回復に向けた支援					
45		76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			散歩や家事など日常の当たり前の生活の中で身体機能の維持向上に努めておられる。訪問時、健康のためにと杖を突いて中庭を歩いている方もおられた。	
			(7)利用者同士の交流支援					
46		78	○トラブルへの対応 職員は、利用者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			職員は、人間関係のむづかしさを利用者の立場になって理解しようと努めておられる。トラブルが起こりそうな場合には、事前に察知され話題を変えるなど、できるだけトラブルになる前に対応できるよう努めておられる。	
			(8)健康管理					
47		80	○口腔内の清潔保持 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			毎食後、利用者個々に応じた口腔ケアを行えるよう支援されている。	
48		83	○服薬の支援 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。		○		服薬の確認は十分に行うようにされており、薬についての一覧表も作成されている。今後は、利用者一人ひとりの使用している薬についての把握に努められることなども望まれる。	ホームで気付かれていることでもあり、この機会にすべての職員で利用者個々が使用している薬について知識を深めるような機会作りなども望まれる。
49		85	○緊急時の手当 利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)		○		年に1度、救命救急法の講習を受講されているが、さらに、すべての職員がいざという時に対応できるよう定期的かつ継続的な取り組みが望まれる。	ホームでは、できるだけ夜勤に看護職の方が就くなど配慮されているが、緊急時はいつ起こるか分からないことでもあり、すべての職員が医師や救急車などが来るまでの間の応急手当を行えるよう取り組まれない。
50		86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			感染症マニュアルが整備されており、それに基づき予防や対策がなされている。	
医療・健康支援 9項目中 計				7	2	0		
			3. 利用者の地域での生活の支援					
51		90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 利用者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			近所の馴染みの喫茶店でおしゃべりを楽しまれたり、買い物や外食に出かけたり、母体法人のデイサービスに通うなどもされている。	一人ひとりの行きたいところの希望を聞き取られたり、出かけてみたくなるような雰囲気づくりなど、個々が出かけて楽しむことができるようなさらなる取り組みが期待される。
地域生活 1項目中 計				1	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		4. 利用者と家族との交流支援					
52	94	○ 家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			ご家族の来訪時、職員は笑顔で歓迎され、居心地よく過ごしていただけるよう雰囲気づくりに努めておられる。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○ 責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			法人代表者及び管理者は、お互いの権限や責任をふまえ、理念に基づきホームの質の向上に熱意を持って、共に取り組まれている。	
54	97	○ 職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、利用者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			管理者は、職員と話す時間を大切にされており、現場職員の考えや意見を聞き、できるだけ汲み取るようにされている。	
55	101	○ 成年後見制度等の活用推進 利用(予定)者やその家族による、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を推進している(制度概要等の説明、申立手続に関する専門機関や相談窓口の紹介等)。また、専門機関等は認知症高齢者の特性やグループホームをよく知っており、利用者や家族等並びにホームを支えていく協力体制が確保されている。	○			現在、制度を活用されている利用者はおられない。管理者は、制度について窓口の紹介など説明できるような体制である。	
		2. 職員の確保・育成					
56	102	○ 利用者の状態に応じた職員の確保 利用者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			ユニット間、1ヶ月交替で調理専門のパートの方が食事作りを担当されており、他の職員がゆとりを持ってケアに専念できるようになっている。	
57	104	○ 継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			法人内研修や外部の研修を受講できる機会が作られており、職員は積極的に参加されている。受講後は、報告書にて共有されている。	
58	106	○ ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			職員間の親睦が図られており、悩みなどは、管理者などが聴いてくれるようになっている。また、職員の急な体調不良時などに心身を休めるベッドなどが揃っている予備室を用意されている。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
59	108	○利用者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望等)	○			入居決定時には、ご家族などと十分に話し合わせ、ご本人の状態や希望などを聴き取り入居対象者であるか検討されている。	
60	110	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、利用者や家族等に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			ご本人やご家族の納得のいく退居先に移ることができるよう支援されている。	
		4. 衛生・安全管理					
61	113	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			衛生管理マニュアルに基づき、用途に応じて消毒液などを使い分けるなどホーム内は衛生、清潔保持に気を配ってられる。	
62	115	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬や洗剤、刃物など注意の必要な物品については保管場所、管理方法などを決め、職員が管理されている。	
63	117	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			事故報告書を作成し、回覧されたりミーティング時に話し合われるなど、再発防止やケアの改善につなげることができるよう取り組まれている。	
内部の運営体制 11項目中 計			11	0	0		
		5. 情報の開示・提供					
64	119	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			訪問調査時、積極的な情報提供が行われた。自己評価は、厳しいものになっており、ホーム自身が「改善の余地がある」とされる項目が多く、さらなるサービスの質向上に向けての前向きな姿勢がうかがえる。	
		6. 相談・苦情への対応					
65	120	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、利用者及び家族等にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			ホームの相談・苦情の窓口を明確にされているが、利用者やご家族などに繰り返し伝えるような機会は少ない。	ホームでは、家族会の開催を年に2回に増やし、さらにご家族などから相談や苦情などが出しやすいよう取り組まれたいと考えておられる。ご家族などの心情などを図り今後も工夫を重ねていかれてほしい。
情報・相談・苦情 2項目中 計			1	1	0		

項目番号 外部 自己	項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
	7. ホームと家族との交流					
66	123 ○ 家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			ご家族の来訪時には、ご本人の暮らしぶりを伝え意見などを出していただけるよう積極的にコミュニケーションを図っておられる。また、家族会開催時に昼食会を開かれるなど交流を深めておられる。	
67	124 ○ 家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、利用者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。(「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等)	○			毎月ご家族に送付されているホーム便りは、利用者の暮らしぶりや日常の様子がうかがえる写真が満載され、ホーム全体の様子なども分かりやすく、ご家族も楽しみにされている。また、ホームページも作成されている。	
68	127 ○ 利用者の金銭管理 利用者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族等と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			ホームでの預かり金については、個別の金銭出納帳により管理されており、月末には2名の職員で確認し、ご家族に報告するようになっている。	
ホームと家族との交流 3項目中 計		3	0	0		
	8. ホームと地域との交流					
69	128 ○ 市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			市との連絡を図っておられる。	
70	131 ○ 地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			町内会に加入されており、ホームの花火大会に地域の方達を招待されたり、秋祭りにはお神輿を入れたり、散歩時にはお話しされるなどされているが、普段、近所の方がホームに立ち寄ってくれるようなことは少ない。	ホームでは、今後開催される運営推進会議を通して、さらに地域の人達との交流を図りたいと考えておられる。さらに、今後も近所の人達との交流を深めていかれてほしい。
71	133 ○ 周辺施設等の理解・協力への働きかけ 利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等)	○			近所の喫茶店は、利用者もお馴染みであり、割引サービスをしてもらっている。消防や警察にも働きかけておられる。	利用者が利用できるところをさらに増やされるなど、利用者個々が地域の中で生活を上げていけるよう今後も、積極的に取り組まれてほしい。
72	134 ○ ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等)	○			ホームの見学や研修・ボランティアなどを受け入れておられるが、今後、ホームの特性や有用性などさらにホームの機能を地域に還元できるような発展的な取り組みが期待される。	ホームの認知症ケアの専門性を活かして、ホーム独自の発展的な取り組みなども期待される。
ホームと地域との交流 4項目中 計		2	2	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	評価理由 (優れている点や改善すべき点等、評価の根拠)	改善方策等
外部	自己						
		その他					
73	144	○火災・地震等の災害への対応 利用者や施設の状況を考慮に入れ、夜間も念頭においた防災対策を講じている。(災害発生時の職員、家族、その他関係機関(母体法人等)との連絡体制の確保、防災応援協定など地域との連携体制の確保、これらの連絡・連携体制を踏まえた災害に対応するための手引書等の作成、避難・誘導等定期的な訓練の実施等)		○		災害マニュアルを作成し避難訓練を実施されており、職員の緊急連絡体制も整っているが、関係機関や地域との連携体制については、運営推進会議などを通じてすすめていかれる予定であり、今後の取り組みとなっている。	さらなる防災体制を確保され、利用者ご家族の安心安全に向けて取り組まれることが期待される。
火災・地震等の災害への対応 1項目中 計			0	1	0		

* (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

(2)「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。